

「宿題やっつけ隊」の定例活動を見学しました。



広島市佐伯区の公民館等で、週4日活動されている「宿題やっつけ隊」による「子どもの放課後学習支援*」を、9月28日（木）に見学しました。

見学当日は、学校にほど近い公民館での開催。木曜日は全校児童が一斉に下校することが多く、この日も13:30近くになると小学1年生から6年生までが、次々やって来て教室は瞬く間に活気づいてきます。

「こんにちは！」「こんにちは！今日も暑かったね」「こんにちはー！」「あら〇〇くん、少し遅かったね、大丈夫？」生徒とボランティアの聲がこだまします。

和室二間続きの広い部屋に、長机が8本、生徒2名にボランティア1名の席がセットされています。生徒たちは、到着すると学年別に座ります。席には各人の学習記録カードやポイントカード、課題のプリントなどが置かれています。

席に着くと、ランドセルの中からテスト結果の報告。「先生見てみてー！」「あらよく頑張ったねー！100点、すごいすごい！」「あっ、こっちもいい点！みんなすごいねー」目を細めるボランティアの反応に子どもたちは誇らしそうに微笑み、このキャッチボールが自己肯定感を高める一端を担っているものと感じました。

近況報告で生徒の様子をつかんだ後、それぞれ宿題や課題のプリントを開始。間違いやわからない問題には、ボランティアがヒントを出しながら説き方を教えます。

ある一定の基準に達したら、ポイントカードにシールを貼ります。カードにポイントがたまると景品に交換してもらえそうで、「もう少しで 100 ポイントたまるんよ！頑張る」と言って、見せてくれる生徒もいました。

途中で代表がスマホを取り出し、「はい、〇〇さん写真撮るよー」と声掛け。「はい、、、」と、心ここにあらずの返事。

「ほらほら、頑張ってるところお母さんに見てもらおうね！」と言うと、背筋をピシッとさせニコリ笑顔やまじめな顔に。

毎回、教室の様子を保護者に送信し当日の様子を報告している



るそうです。カメラ撮影するタイミングは、集中力が途切れてきた様子が伺える頃とのこと、保護者の顔を思い浮かべると、緊張感が出るようでラストスパートに絶大な効果があるとのこと、保護者との連携が築けているようです。

宿題が終わった後は、それぞれ、課題プリントや家から持参したワークブック等に取り組みます。中には難しい市販のドリルを持参してきている生徒も。算数が得意なお子さんのようで、少数の割り算の虫食い算のワークブックにチャレンジ、ボランティア数人が一瞬考え込む一幕もありましたが、生徒と一緒に楽しそうに解いていました。

小学1年生の子は、お姉さんの終了を待つ間、図書室から本を借りてきて読書タイム。最初はすらすら読めなかったそう。本に興味を持ったので、一緒に練習しているうちに好きになり、まだ習っていない漢字も読めるようになりたいと教えてもらう姿勢が印象的でした。

ボランティアの皆さんからは、「お子さんが『先生、できた！』と、満足そうな顔をしてくれることが一番の喜び」「生徒が宿題をしている間に、『先生はこの問題解いてごらん』と、難しい問題を出されることがあり、ドキッとするけど頭の体操になってこちらも楽しい」「きっかけは、このボランティアを公民館のポスターを見て知った。丁度企業をリタイアした時で、もともと子どもが好きだったので取り組んでみようと思った。楽しく過ごしています」等の感想が寄せられました。

勉強の楽しさを知り習慣化させるとともに、興味を伸ばすことに手助けをしてもらえるこの活動に、次世代を担う子ども達の可能性の広がりを感じました。

「宿題やつつけ隊」は、2021年からマツダ財団市民活動支援で支援しており、3年目となる今年度が最終年です。素晴らしい取り組みなので、課題の資金源を確保され、長く続けられることを願っています。

(本郷)

*当活動は、教育格差の解消と地域コミュニティ創出を目的とし、学習塾に通っていない小学生を中心に無料学習支援を行うもので、2017年に開始されました。講師はすべて地域住民のボランティアの皆さまで、小学校の非常勤講師をされている松岡代表の他は、大学生や仕事をリタイアされた方々約20名、区内5学区の小学生約120名の学習支援を実施、最近では保護者と連携した家庭学習の習慣化にも取り組んでおられます。